

「田んぼのオーナー制度」が始まりました

今年度から「ほのぼのの営農集団」（松野）が実施する稲作体験「田んぼのオーナー制度」が始まりました。

田植え、田の草取り、稲刈りなどの作業を年4回実施。野菜の収穫も体験することができます。

県内外から集まった参加者21人は5月4日、松野地区の田んぼで岩村文郎組合長ら5人の指導を受けながら、交代で田植え機の操作を教わり、機械での田植えや昔ながらの手植えでの田植えを体験しました。



全校生で田植え体験

5月15日、小川南小学校で田植え体験学習が行われました。

指導者の石井勲さん（高岡）から「この小さな苗は、収穫時には180倍に成長することになります。児童の皆さんもこの稲と同じで無限の可能性があります。しっかりと植えてください」とあいさつ。

早速、一列に並び裸足で田んぼに入った子どもたちは、泥の感触に歓声を上げながら、田植えをしました。

子どもたちの顔は泥だらけになりながらも、作業を終えた満足感にあふれていました。



那珂川でカヌー訓練

馬頭高校水産科の総合実習の一環として行っているカヌー訓練が5月28日、3年生13名が参加して開催されました。

今年は雨による影響で2日目が中止となり、同校実習場付近の武茂川から那須烏山市舟戸までの20kmを下りました。例年より距離は短いですが、その分ゆとりをもって川を観察し、漕艇訓練ができるそうです。

出発に際し、水産クラブ部長の梅永怜さんは「何回か那珂川で訓練をしましたが、実際に長距離を下るのは初めてで、大変楽しみにしています」と話していました。



馬頭小学校で移動博物館

県立博物館主催による「移動博物館」が5月28日と29日の2日間、馬頭小学校体育館で開催されました。28日には全校生徒が参加して、十二単と鎧を着る体験をしました。

博物館の職員に、色とりどりの着物5枚を着せられた鶴川夏季さん（6年）は「1年生をおんぶしているように重いです」と答えていました。

また、徳川家康が着用したと伝えられる鎧をまとった小川先生は「胴回りが特に重く、とても見動きがとれない」と話していました。

その後、児童らは恐竜の卵や鉱物など230点もの展示品を見学しました。



町文化財愛護会設立総会

那珂川町文化財愛護会設立総会が5月28日、小川総合福祉センターすこやか共生館で開催され、約50人が出席しました。

役員は、理事の互選により、初代会長に福島正氏（芳井）が就任しました。

就任後、福島会長は「郷土に伝わる文化遺産を後世に継承することが私たちの使命です。昔の人がいかに賢く生きたかを学び、現代に生かしてほしい」とあいさつ。

総会終了後、「古代那須と川崎古墳」と題する眞保昌弘学芸員の講演があり、会員は熱心に聞き入っていました。



ホームステイ
ウィークエンド in 那珂川
2008
「田植え」



農業を通して日本文化への理解を深めてもらおうと5月10日、福島泰夫さん（芳井）の水田で田植えを行う「ホームステイウィークエンド in 那珂川」が開催されました。県内在住の外国語指導助手（ALT）や留学生など35人、町内の児童やホストファミリーらあわせて約100人が昔ながらの田植えに挑戦しました。初めて経験する外国人たちは素足に伝わる泥の感覚に悲鳴をあげながら、田植えを楽しんでいました。

●アハマト・ラティファさん（アメリカ出身）
すばらしい体験ができました。田植えは難しくはないですが、苗をきれいに植えるのに集中して植えました。収穫の時もぜひ、来たいです。



●スコット・マッシーさん（アメリカ出身）
今回で2回目の参加です。昨年、稲刈りも体験しました。とても楽しかったです。



●林佩樟（リン・ハイカ）さん（台湾出身）
田植えは初めてでしたが、みんなと一緒に楽しく植えることができました。



田植え後には、「芳井夢の会」や「舟戸元氣かい」のメンバー手づくりの料理や流しそうめん、石窯焼きピザに舌鼓を打ちました。外国人の参加者に田植えの感想を聞いてみました。



●運動会・体育祭
5月17日、大山田小学校で運動会が、24日に小川中学校で体育祭が行われ、児童や生徒たちは日ごろの練習の成果を保護者やおじいちゃん、おばあちゃんに披露していました。

